

# 事業評価調書

## ◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	36816
事業名	健康推進費					
評価担当課	所属名	保)保健所 健康企画課				
	課長名	關 靖子	担当者名	布施 絢乃	電話番号	011-622-5151
施策名	主	地域で共生する環境づくり				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	市民の自主的な健康づくりを支援する環境を整備する。			
		長期	市民が地域とのつながりの中で、すこやかに心豊かに生活できる社会の実現。			
	取組内容	健康な生活習慣の啓発により、市民の自主的な健康づくりを支援する。 ①健康課題に応じた普及啓発の推進 ②「健康づくりを支える環境整備」ウォーキングマップ改訂・増刷、健康機材消耗品 ③「住民主体の健康づくり活動支援」自主活動グループ等支援、健康教育、健康づくりサポーター派遣等				
実施結果	①各区の健康課題に応じたチラシ等の作成や新型コロナウイルス感染対策に配慮したパネル展などの形式で広く普及啓発を実施。 ②北、東、厚別、手稲区にてウォーキングマップ増刷し、希望者への配布により、コロナ渦でも運動できる環境づくりを支援。 ③感染症対策の徹底やオンライン形式の活用など実施方法を工夫し、各区において健康づくりサポーターの派遣や自主活動グループへの支援等を実施。					
事業実施における工夫点	健康づくり活動及び健康教育は、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、感染症予防を徹底した上で実施。また、参集形式以外に、動画の配信、オンライン形式等実施方法を工夫した。					
対象者	市民全体	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	健康増進法					
他都市の状況	○静岡県 地域づくりアドバイザー派遣事業 地域づくり事業を実施する団体に対し、地域づくりアドバイザーを派遣する。					

## ◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	16,957	27,909	18,312	24,909	
うち特定財源	750	750	764	764	
人工	12.7	12.7	12.7	12.7	
人件費	91,440	91,440	91,440	91,440	
計(事業費+人件費)	108,397	119,349	109,752	116,349	
事業費の内訳	令和3年度決算	報償費309千円、旅費141千円、需用費4797千円、役務費(郵送費等)510千円、委託料他(業務運営委託)2740千円、使用料及び賃貸料54千円、備品購入費3075千円、負担金6654千円、償還金32千円			
	令和4年度予算	報償費2626千円、旅費1141千円、需用費5336千円、役務費(郵送費等)302千円、委託料他(業務運営委託)8282千円、使用料及び賃貸料574千円、負担金6648千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	健康教育参加延人数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	13,533	10,000	21,641	30,000	
活動指標2	指標名	健康づくりサポーター派遣回数			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	21	20	17	100	
成果指標1	指標名	包括的連携協定締結企業の取組数(累計)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	160	200	180	240	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	健康教育は、新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえ、パネル展やオンラインなど開催方法を工夫して行われた。参加延人数は昨年度よりも減少しているが健康づくりの普及啓発の新たな方法を確立し、次年度の活動手法が広がったと評価できる。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	健康教育参加延人数より、コロナ渦においても感染対策をとりながら安全な方法で健康づくり事業が行われたと判断する。			
事業の実手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	健康づくりサポーター派遣回数は昨年度よりも減少しているが、希望する市民団体にサポーターを派遣することで市民の健康づくり活動を支援している。包括的連携協定締結企業等との連携により、健康づくりに関する普及啓発を行った。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	各区で作成しているウォーキングマップの配布により、コロナ渦における市民の運動への取組に対応してきた。また、パネル展やオンライン形式での市民健康教育開催、市内中心部に「歩こう☆プラス10分」というキャッチコピーをポスター掲示するなど、非対面での事業開催および普及啓発は市民のニーズに応えたと判断する。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応	<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映	
今後の改善点	コロナ禍の外出自粛により健康課題を抱えた人や運動習慣が減少した人、特に働く世代に対して健康行動を促す働きかけを行う必要がある。				
前回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	新型コロナウイルス感染症の流行状況を見極めながら、事業の実施方法についての検討、延期・中止等を判断し、市民の健康づくり活動を支援した。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A    ○ B    ○ C    ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	開催可能な方法で工夫しながら事業を実施し、市民への健康づくりの普及啓発は継続されたと判断したため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善    ○ 現状維持    ○ 休止・廃止 感染状況と市民ニーズに合わせ、特に住民主体の健康づくりに関する活動が促進されるよう、普及啓発や活動支援を行う。			
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充    ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他 健康課題に応じた普及啓発や市民への活動支援として、適切な予算措置を行う。		見直し効果額	0 千円